

(様式2)

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590101190		
法人名	医療法人 愛広会		
事業所名	グループホームはやどおり		
所在地	新潟市北区早通93番地3		
自己評価作成日	平成28年 1月 4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成28年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から2年目を迎えたグループホームはやどおりは、建物の2階にある事業所です。近隣の畑や車の通りが見え、人の動きが感じられる眺めの良い場所にあり、入居者様と職員は明るくゆったりとした雰囲気の中で日々を過ごしています。

月に1度は行事を行っており、季節を感じて頂ける作品作りにも取り組んでいます。1階のリビングサポートはやどおり(小規模多機能型居宅介護事業所)と合同でクラブ活動も始めました。合同で行う活動が増えた事で良い刺激と交流が図れ、会話も弾み笑い声も大きくなっています。地域の祭りや運動会に参加したり、幼稚園児との交流会等、地域との関わりも多く持てるようになってきました。

職員は入居者様一人ひとりの暮らし方を尊敬・尊重しながら、安心した生活ができるようにサポートさせて頂いています。そして常に共有を心掛け、入居者様の笑顔が多く明るい事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の一角に位置する当事業所は、一見すると普通の民家のような建物で、地域の景観に溶け込み違和感なく馴染んでいる。建物の1階に小規模多機能型居宅介護事業所を併設し、2階で1ユニット9名のグループホームを運営している。

平成26年4月に開設して、ようやく2年が経とうとしているところであるが、経験豊富な管理者や職員の努力により地域での認知度は高く、福祉の拠点としての立場を担っている。母体法人は多くの医療サービスや福祉サービスの事業を運営しており、グループ一体となって一人ひとりの利用者を地域で最期まで支えて行く体制が確立されている。

当事業所の理念の一つである「笑顔あふれ、安心できる環境作り」を実現すべく、利用者一人ひとりの思いを大切に毎日笑顔で過ごせるような支援に努めている。また、生活の中で利用者個々に役割を持ってもらうことで自立を促し、生き活きとした生活に繋げている。

高齢者や障害者の雇用にも積極的であり、訪問当日も活躍されている姿が見られた。職員同士のチームワークも良く、常に笑顔が溢れている事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時にスタッフ全員で理念を作り、玄関や事務所に理念を掲示している。意識する事で実践につなげている。スタッフ会議でも話し合い、もう少しこのままの理念で実践していく事となった。	開設時に全職員で作上げた理念を常に念頭に置き、日々の業務に反映させている。職員会議の中で定期的に理念の内容をひも解き、周知を図っている。理念にあるように、家庭的な雰囲気作りや一人ひとりを大切にしたいケアを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭りに参加したりさせて頂いたり、地域の運動会にも参加させて頂いた。近隣の幼稚園児に来て頂く等の交流も図れている。又、同法人のデイサービス主催の認知症勉強会にも協力等行っている。	地区の自治会長と懇意にしており、夏祭りや運動会への参加や、ボランティア募集についての助言をもらったりしている。地域の会合にも出席して相互に情報交換を行っている。近くの幼稚園児や中学生の訪問もあり、地域との関係は年々深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や外部からの問合せ時等に、一緒に考えたりアドバイスしたりし、ご理解が頂けるようにしている。また対応方法等の相談にも乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所についての報告だけでなく、メンバーより様々な議題や質問があがる為、意見交換ができサービスの向上に活かしている。又、会議録を玄関前にも置き、誰でもいつでも閲覧できるようにした。	利用者、家族、自治会長、民生委員、物忘れ外来の医師、地域包括支援センター職員、法人内のグループホーム管理者、法人幹部といった多様なメンバーにより定期的に会議が開かれている。毎回、積極的な意見交換が行われ、運営に活かされている。職員の名札があった方が良いという意見を反映させて法人全体で制服に名前を付けるようにした。	運営推進会議で話し合われた内容や意見については、参加した利用者・家族のみならず、全ての利用者・家族に報告することが望まれる。今後も運営推進会議を活用した幅広い取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の研修に参加したり、包括ケア会議で事例検討も行っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加して頂いている。	地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議以外でも地域ケア会議や研修会、利用相談などで常に連携がとられており、顔の見える関係である。事業所で発行している「お便り」も定期的に届けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等行っており、身体拘束について理解している。日中施錠せずに過ごしている。入居者様に寄り添い不安を解消し、安心・安全に努めている。	事業所が2階にあるため、転落防止も兼ねて出入り口には鈴を取り付け、音で出入りを察知している。利用者が出て行く際には、言葉掛けや付き添いにより落ち着くまで対応している。外部研修に参加した職員が伝達講習を実施して、不適切なケアを防ぐための環境が作られている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体面の虐待だけでなく、言葉使いや対応が相手にとって虐待とにならないようにも注意している。虐待はあってはならないものと認識している。	不適切なケアについて職員が互いに指摘しあえる関係にあり、虐待の防止に繋がっている。管理者は日頃の関係作りはもとより、職員一人ひとりの変化を見過ごすことないように努め、悩みやストレスにも配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な場合は包括支援センターや同法人の老健に相談しながら進める事としている。研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族らと充分話し合い説明し、同意を頂いてから締結等行っている。わかりやすい説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や面会時、又電話時等に要望等はないかの確認を行っている。職員に気軽に話せる雰囲気作りを行っている。意見等もあがるようになり、全職員に周知運営に反映させている。法人でのアンケートも行っている。	3ヶ月に1回のサービス担当者会議には家族にも出席してもらい、利用者と共に意見や要望を直接聞く機会としている。日頃から面会も多いため、家族とは顔を合わせて話ができている。平成27年度は、法人で家族向けのアンケートを実施しており、今後、結果を公表する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の話し合いやスタッフ会議、その他個別でも話を聞く時間を設けている。意見交換もできている。法人での業務改善提案制度で意見も言えるようになってきている。	日常の意見や要望は何でも申し送りノートに記載し、共有が図られている。法人には職員の意見を大切にする風潮があり、企画案の提出などで報奨金が出る業務改善提案制度により、法人の上層部に意見や要望を伝えられる仕組みができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働く事ができるよう、個別に話をする時間を作るようにしている。自己申告書によっても把握されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的開催される法人内の研修や、外部での研修に参加できるように調整を行っている。又、それを内部研修として職員に周知し、知識等の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所会議等に参加し情報交換出来ている。同法人の老健やグループホームとも情報交換ができる機会があり、サービスの質が向上できるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安にならないよう本人の思いを傾聴し、情報収集を行い、安心して頂けるようなコミュニケーションを取っている。どのように過ごしたか等、ゆっくりと確認を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や入居後の希望等を聞き、全スタッフが相談に対応できるよう、情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に現状の聞き取りを充分に行い、どのような事を求め必要としているのかの見極めを行っている。又、必要に応じたサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な援助はせず、得意な事やできる事で力を発揮して頂き、職員が知らない事を教えて頂きながら食事や活動時も一緒に楽しむようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やサービス担当者会議、毎月のお手紙等で日常の様子をお伝えし、又、外出・外泊時の様子等を伺い、情報の共有を行っている。家族の立場や状況を理解し、協力しあいながら支援している。	家族の面会の機会が多いため、その都度お願いすることで協力を得やすい関係が出来ている。事業所での本人の様子は手紙にして家族に報告している。お盆や正月の外出や一時帰宅も積極的に受け入れてもらっており、家族と協働で利用者を支えている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人等の面会時には、居室でゆっくりと過ごして頂いている。家族等のご協力のもと、食事に行ったり、行きつけの美容室に出掛ける方もいらっしゃる。	入居前の馴染みの関係が継続できるように家族にも協力を依頼している。親戚や知人、時には民生委員として関わっていた方なども利用者を訪ねて来訪することがある。買い物に行く行きつけのスーパーでも顔馴染みとなっており、店員からの挨拶や言葉掛けに応えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者間関係は全職員が把握している。孤立する事のないよう、職員が仲介役となり、良い関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了された方はいないが、終了しても必要時には連絡を取り合い、相談や支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を傾聴できる場面を作り、意向や不満等を確認している。できるだけ本人の希望に添えるよう支援している。入浴時には特にゆったりとした中で1対1で話をする事ができている。	利用者からは、ゆっくりと1対1で話のできる入浴時などを利用してその場その場で傾聴するよう心掛けている。意思疎通の難しい方は、いろいろな情報を基にして職員が思いや意向を推し測っている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に多方面より十分な情報収集を行っている。入居後もその方に合った生活に近付けられるよう、状況の把握に努めている。細かく記載し共有している。	入居前に本人と家族にホームに来てもらい、事業所を良く見てもらいながら面談している。その場で収集した情報と、関係する機関や人からの情報を集約して、これまでの暮らしの把握に努めている。	業務の中で知り得た情報は申し送りノートに記載して共有しているが、フェイスシートに追記して更新していくシステムがない。情報を集約し、それを見れば利用者のこれまでの暮らしが全て分かるようなシステムの構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を充分に見極め、日々の状況や心身の特変等を記録としても残し、口頭等でも職員間で情報の共有ができており把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成担当者を中心として、全職員の意見を記録にまとめ、本人・家族と意向の確認をし、本人にとってより良い介護計画が作成されるよう努めている。	3ヶ月に1回、家族に出席してもらってサービス担当者会議を開催している。計画書を基に話し合い、その場で修正して同意を得ている。その際には利用者にも参加してもらい、本人本位の介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間共に細かく記録しており、業務日誌・申し送りノートを活用し情報の共有が出来る。又、それを見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に変化があれば、すぐに話し合う場を設け見直しを行ったり、その時々合った支援を臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	受診時には情報書を作成し、支援の仕方等アドバイスや指示が頂けている。ボランティアさんに来て頂いたり、近隣の幼稚園との交流や地域の祭りに参加する等行い、楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携シートを活用し、かかりつけ医に情報をお伝えしている。又、注意点やアドバイス等頂く事もできている。	定期受診の付き添いは家族の役割としてお願いしている。医療機関とは、地域で使用されている「医療連携シート」を活用して事業所から情報を提供すると共に、医師からもコメントを記載してもらっている。かかりつけ医を講師に迎えて勉強会を開催するなど、連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師に来て頂いている。定期日以外にも不調や異変があった場合は24時間相談する事ができる為、ご家族へ報告したり必要により受診に繋げる事が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換を行い、直接状態も伺いに行っている。本人、家族等の意向も確認し、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の面談時から方針の説明は行っている。入居時には書面をもって再度説明し、本人、家族の意向を踏まえ、出来る限りの支援を行えるよう取り組んでいる。	重度化した場合における対応に係る指針が整備されており、入居契約時に本人・家族に説明をし同意を得ている。事業所の機能と照らし合わせて重度化や終末期の支援に取り組むとともに、本人や家族の意向を大切にして、他施設への入所相談や手続き等の支援も行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議で備えについて確認をした上で、シミュレーション訓練を行っている。的確な手順の確認や改善を行っている。	3ヶ月に1回程度は勉強会および訓練をするように計画している。平成27年度は、水虫の処置、ノロウイルス対応、AEDの取り扱い訓練などを行っている。緊急時の対応についてのフローチャートが、職員の見やすい場所に設置されている。法人の訪問看護とも連携し24時間連絡できる体制もできている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害時に備え、全職員が対応できるようマニュアルを整備し訓練を実施している。同法人の合同防災会議にも参加し情報収集も行っている。	日中・夜間の火災のほか、地震や水害を想定した訓練も行っており、有事に備えている。法人の合同防災会議が定期的に行われており、マニュアルの見直しや協力体制についての話し合いが行われている。	地域との関係作りが進んでいる中で、非常災害時の協力体制の確立は必要不可欠である。昨今の自然災害の状況も鑑みて、地域との連携の早期確立を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、個人に合った言葉かけを行っている。羞恥心やプライドに配慮した対応にも努めている。法人でホスピタリティ研修を行い、定期的に振り返る時間を取っている。	法人が行っているホスピタリティ研修に参加して基本的な接遇やマナーについて学んでおり、日々の関わりの中でも利用者の尊厳を傷つけないよう常に配慮している。また、定期的に職員が自分のケアについて振り返る機会もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや本音を引き出せる様コミュニケーションを多く取り、工夫しながら自己決定できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを尊重し、焦らせたりする事のないよう出来る限り希望にも添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めやパーマ、カット等希望に沿って支援している。その日に着る服選び等も会話しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切りや下準備、後片づけ等、それぞれの持っている力を活かし、職員と一緒にやっている。食べたい物をメニューに取り入れたり、昼食は職員も一緒に食べ、様子も伺う事が出来ている。	職員が作る献立は、利用者の嗜好や要望を十分取り入れており、栄養面でも定期的に管理栄養士の指導を受けて偏らないよう注意している。食事の準備や後片付けなどで利用者にはできる事に存分に力を発揮してもらうなど、自立支援にも配慮している。食事時は、会話をしながら、楽しい一時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った摂取量を把握し、体重変化もみている。栄養面も同法人老健の管理栄養士より定期的に献立の確認、指導を受けている。水分摂取状況も確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きを行っている。その方の状況により、声掛けや見守り、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要によっては表に記載し、定時誘導ではなく、行きたい時にトイレに行けるよう見守り、支援している。	個々の排泄パターンを把握し、さり気ない言葉掛けでトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄を基本としつつ、おむつを使わないことを無理強いすることではなく、本人の安心感を考えてあえて使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防が出来る献立の工夫や、入浴後や活動後には水分を摂って頂いている。自然な排便が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前か午後か等、時間は出来る限り希望に沿うようにしている。直前に本人の希望により変更する事もある。時間にも余裕を取り、ゆったりと入浴して頂けるように支援している。ゆず湯等で喜んで頂く機会もある。	利用者、家族の要望を聴きながら、現在は1日おきの入浴となっている。入浴の時間は利用者と一緒に話が出来ると捉えて、会話をしながら心地良く入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムを把握し、お昼寝や休息を取って頂いている。布団かベッドかを選んで頂いたり、使い慣れた毛布等を持参頂いている。不眠等の場合は原因を探り、安心できる声掛けや温度調節等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の薬箱に説明書を添付している。又、服薬一覧表を作成しており、誰が、どの薬をいつ服用し目的や用量も全職員に周知されている。薬の変更があった場合は業務日誌等を活用し、状態変化の把握ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った役割や得意分野を行って頂き、感謝や労いの言葉をかける事で実感して頂けるようにしている。毎月行事を行い、誕生日には全員でお祝いする等、楽しめる時間作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	食材の買い出しと一緒に出掛けたり、足湯や外食等、行事も取り入れている。天気の良い日には散歩やドライブにも出かけている。本人より希望があった場合等、家族と連絡を取り合い外出される事もある。	日常的に、近所の公園や駅前まで季節の花木を見ながら散歩している。予定になくても、利用者と相談して初詣やドライブに行くこともある。個別の外出の要望には、家族の力を借りながら出掛けられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談し、少額のお小遣いを事務所預かりとしている方が多い。おやつや日用品等、希望の物が購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には、ホールや事務所の電話をいつでも使用できるようにしている。年賀状等を出す方もおり、購入から投函までの一部を一緒に行う等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った作品等を飾り、カーテンの開け閉め、温度管理や換気等をこまめに行っている。白・ベージュ・緑を基調にし、環境整備や心地良い空間作りを行っている。	季節ごとの掲示物を利用者と共に制作して壁に飾ったり、外出の際に撮った写真をたくさん貼るなど、来訪した家族も楽しめるように心がけている。こまめな換気と濡れタオルなどを使用した温度・湿度の調節で感染症の予防に努めており、利用者が居心地良く過ごせるよう、窓からの採光にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく気の合った方と過ごせるよう、テーブル席の配置は工夫し、十分な配慮を行っている。ソファ席もあり、ゆったりと過ごせる空間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していた家具や寝具をお持ち頂いている。配置も本人と家族にして頂いている。好みの物を飾り、居心地良く過ごせるよう支援している。個性のある居室となっている。	使い慣れた家具や寝具を自由に持ち込んでもらい、担当職員を中心に家族の協力を得ながら、思い思いの居室作りを支援している。それぞれに個性のある居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはのれんを下げたり、自分で書いた名前がある。トイレも表示があり、わかりやすい工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				